

上博楚簡『鬼神之明』に見える 「貴爲天子、富有天下」について

西山 尚志

はじめに

一九九四年、香港の骨董市場から発見されて上海博物館が買い戻したいいわゆる「上博楚簡」は、寫眞圖版と釋文が附されて、二〇〇一年十一月に馬承源主編『上海博物館藏戰國楚竹書（一）』が上海古籍出版社から出版された。現在は第五卷まで出版されているが、その第五卷に『鬼神之明』と名付けられた文獻が収められている¹。曹錦炎氏による同書第五卷所収の『鬼神之明』「説明」では、「本篇爲對話體、雖然失去開頭部分、且無「説話者」、但從內容分析應是《墨子》的佚文。記述墨子與弟子或他人的對話、討論的內容是鬼神有所明有所不明的問題。」としており、この『鬼神之明』を明確に『墨子』の佚文と考えている。しかし、この問題はその後、李銳氏や丁四新氏などの批判に遭うなどして、必ずしも定説化しているわけではない²。ただ、この『鬼神之明』の内容を讀んでみると、確かに現れるボキャブラリー・論理の展開方法・話題など、少なくとも表面上は、『墨子』と共通するものが多いことにすぐに氣づかされる。本稿では、この『鬼神之明』に見える「貴爲天子、富有天下」³という表現を検討し、その思想史上の位置づけを考察したい。

一、「貴爲天子、富有天下」とその類似表現

まずは、「貴爲天子、富有天下」とそれに類似する表現の傳世文獻中における用例を以下に挙げる。

- ①「貴爲天子、富有天下」という用例は、『墨子』に十一例（七患篇・兼愛下篇・非攻下篇・節葬下篇・天志上篇・天志中篇・明鬼下篇に四例・非命下篇）、『莊子』に二例（盜跖篇に二例）、『荀子』に二例（榮辱篇・王霸篇）、

『呂氏春秋』に一例（功名篇）、『管子』に一例（霸言篇）、『韓詩外傳』に一例（卷五）、『説苑』に二例（敬慎篇・至公篇）、『史記』に三例（秦始皇本紀に二例・平津侯主父列傳）ある。

- ②「富有天下、貴爲天子」という用例は、『淮南子』に一例（詮言篇）ある。
- ③「貴爲天子、富有四海」という表現は『韓詩外傳』に二例（卷三・卷八）、『新書』に二例（過秦中篇・過秦下篇）、『説苑』に一例（敬慎篇）、『孔子家語』に一例（賢君篇）、『雲笈七籤』に一例（邊洞玄篇）ある。
- ④「貴爲天子、富有海内」は『管子』（形勢解篇）に一例ある。
- ⑤その他として、『孟子』萬章上篇に、

富、人之所欲、富有天下而不足以解憂。貴、人之所欲、貴爲天子而不足以解憂。

とある。また、『呂氏春秋』孟春紀の重己篇に、

論其貴賤、爵爲天子、不足以比焉。論其輕重、富有天下、不可以易之。

とあり、『呂氏春秋』慎大覽の下賢篇に、

帝也者、天下之適也。王也者、天下之往也。得道之人、貴爲天子而不驕倨、富有天下而不騁夸、卑爲布衣而不瘁攝、貧無衣食而不憂懼。……

とあり、『抱朴子』勤求篇に、

論其貴賤、雖爵爲帝王、不足以此法比焉。論其輕重、雖富有天下、不足以此術易焉。

とあり、『史記』龜策列傳に、

元王曰、不然。寡人聞之、諫者福也、諛者賊也。人主聽諛、是愚惑也。雖然、禍不妄至、福不徒來。……桀紂之時、與天爭功、擁遏鬼神、使不得通。是固已無道矣、諛臣有衆。桀有諛臣、名曰趙梁。教爲無道、勸以貪狼。繫（湯夏臺，殺關龍逢。左右恐死、偷諛於傍。國危於累卵、皆曰無傷。稱樂萬歲、或曰未央。蔽其耳目、與之詐狂。湯卒伐桀、身死國亡。……是人皆富有天下而貴至天子、然而大傲。欲無馱時、舉事而喜高、貪很而驕。不用忠信、聽其諛臣、而爲天下笑。

とある。以上、『鬼神之神』の「貴爲天子、富有天下」と文章の表現がぴた

りと合うのは、①であるが、傳世文獻中では『墨子』が圧倒的に多いことがわかる。なお、本稿では便宜上、①の「貴爲天子、富有天下」を①～⑤の代表とする。

二、「貴爲天子、富有天下」の種類

なお、これら①～⑤の「貴爲天子、富有天下」に共通する基本的な考えは、誰しもが羨む欲求の対象であるということである。例えば、上擧した『孟子』萬章上篇に、「富、人之所欲、富有天下而不足以解憂。貴、人之所欲、貴爲天子而不足以解憂。」とあるのや、『荀子』榮辱篇に、

夫貴爲天子、富有天下、是人情之所同欲也。

とあるのはその典型である。そして「貴爲天子、富有天下」は、この中から大きく以下の二つのタイプに分けることができる。

I型：よいことをした結果、「貴爲天子、富有天下」となった、というもの。

II型：「貴爲天子、富有天下」であっても、悪いことをしたので罰などが下った（非業の死を遂げた、後世の評価が低い、など）というもの。

もちろん、上記の二つのタイプから漏れる例もあり、一般的ないわゆる「富貴論」を論じる際に擧げられることもあるが（例えば、上記『荀子』榮辱篇など）、しかし多くの例はこの二つのタイプに包括されている。

そして、さらにこの「貴爲天子、富有天下」は、堯・舜・禹・湯や桀・紂といった半ば傳説的な君主に對して用いられることが多い（『孟子』萬章上篇・『墨子』七患篇・兼愛下篇・天志上篇・天志中篇・明鬼下篇に四例・非命下篇・『莊子』盜跖篇・『管子』形勢解篇・『呂氏春秋』功名篇・『韓詩外傳』卷五・『孔子家語』賢君篇・『說苑』敬慎篇に二例・至公篇・『史記』龜策列傳）。その上、上記のI型は堯・舜・禹・湯といった古代の聖王とともに用

いられ、II型は桀・紂といった暴君に用いられることが多い。つまり、これらをまとめると、以下のように歸納することができる。

I'型：堯・舜・禹・湯などの古代聖王はよいことをしたので、「貴爲天子、富有天下」となった、というもの。

II'型：桀・紂などは「貴爲天子、富有天下」であっても、罰などが下った（または、非業の死を遂げた、後世の評価が低い、など）というもの。

上記のI・II型に包括される諸篇の中で、I'型は『墨子』節葬下篇・天志上篇・天志中篇にのみに見られる。そして残りの多くはみな桀・紂などの暴君に用いられるII'型であり、『墨子』七患篇・明鬼下篇に四例・非命下篇・『莊子』盜跖篇・『管子』形勢解篇・『呂氏春秋』功名篇・『新書』過秦中篇・過秦中下篇・『韓詩外傳』卷五・『孔子家語』賢君篇・『説苑』敬慎篇に二例・『史記』龜策列傳に見られる^{iv}。I'型の文章をそれぞれ挙げると、『墨子』節葬下篇に、

今執厚葬久喪者之言曰、厚葬久喪、雖使不可以富貧衆寡、定危治亂、然此聖王之道也。子墨子曰、不然。昔者堯北教乎八狄、道死、葬蚩山之陰。衣衾三領、穀木之棺、葛以緘之、既浼而後哭、滿埴無封、已葬、而牛馬乘之。舜西教乎七戎、道死、葬南己之市、……禹東教乎九夷、道死、葬會稽之山……若以此若三聖王者觀之、則厚葬久喪、果非聖王之道。故三王者、皆貴爲天子、富有天下。豈憂財用之不足哉。以爲如此葬埋之法。

とあり、同じく天志上篇には、

……子墨子言曰、昔三代聖王禹湯文武、此順天意而得賞也。昔三代之暴王桀紂幽厲、此反天意而得罰者也。然則禹湯文武其得賞何以也。子墨子言曰、其事上尊天、中事鬼神、下愛人、故天意曰、此之我所愛、兼而愛之。我所利、兼而利之。愛人者此爲博焉、利人者此爲厚焉。故使貴爲天子、富有天下、業萬世子孫、傳稱其善、方施天下、至今稱之、謂之聖王。

然則桀紂幽厲得其罰何以也。子墨子言曰……

とあり、同じく天志中篇に、

曰愛人利人、順天之意、得天之賞者有之。憎人賊人、反天之意、得天之罰者亦有矣。夫愛人利人、順天之意、得天之賞者誰也。曰、若昔三代聖王、堯舜禹湯文武者是也。……帝善其順法則也。故舉殷以賞之、使貴爲天子、富有天下、名譽至今不息。故夫愛人利人、順天之意、得天之賞者、既可得留而已。

とある。そして注意すべきことは、『墨子』節葬下篇・天志上篇・天志中篇の三例のみに見られるこのI'型のうち、『墨子』天志上篇・天志中篇は天・鬼神に関する議論の中で用いられているということである。

三. 上博楚簡『鬼神之明』の「貴爲天子、富有天下」

では、ここで改めて上博楚簡『鬼神之明』の「貴爲天子、富有天下」はどのような文脈の中で用いられているか見てみることにする。『鬼神之明』第一・二號簡に以下の様な文章がある。

本文

今夫梟（鬼）神又（有）所明、又（有）所不明。則（則）曰（以）元（其）賞善罰蠹（暴）也。昔（昔）者、先（堯）堯（舜）堯（禹）湯、息（仁）義聖智（智）、天下灑之。此曰（以）貴爲天子、（以上、第一號簡）賧（富）又（有）天下、長年又（有）譽（譽）、後殛（世）遂（述）之。則梟（鬼）神之賞、此明矣。

訓讀

今夫の梟（鬼）神明らかなる所又（有）り、明らかならざる所又（有）り。則（則）ち元（其）の賞善罰蠹（暴）を曰（以）ってなり。昔（昔）者、先（堯）堯（舜）堯（禹）湯は、息（仁）義・聖智（智）あり、天下これに灑る。ここを曰（以）って貴たるは天子と爲り、賧（富）たるは天下を又賧（有）

ち、長年にして譽（譽）又（有）り、後殞（世）これに遂（述）う。則ち梟（鬼）神の賞は、此れ明らかなり。

口語譯

今かの鬼神には明知であるところと明知でないところがある。つまりその（鬼神の）善賞暴罰をもってして言うのである。むかし、堯・舜・禹・湯は、仁義・聖智があり、天下がこれに則った。そこで（堯・舜・禹・湯は）貴いことでは天子となり、富なることでは天下をたもち、長壽にして名譽があり、後世はこれに順った。つまり鬼神の賞は、こういったことで明らかである。

以上の文章を一見してわかる通り、この『鬼神の明』の「貴爲天子、富有天下」はⅠ'型である。またこの『鬼神の明』もⅠ'型の『墨子』節葬下篇・天志上篇・天志中篇の三例と同様に、鬼神論の中で用いられていることがわかる。この点だけ見れば、『鬼神の明』は「貴爲天子、富有天下」において墨家特有のロジックを利用しているということが言えよう。

おわりに

以上、上博楚簡『鬼神の明』の「貴爲天子、富有天下」は、Ⅰ'型に分類されることが確認できた。言うまでもなく、傳世文獻中におけるⅠ'型はみな『墨子』からのものである^{vi}。そして、他學派には用いられないことはおろか、漢代に入ってからこのタイプは完全に消滅し、Ⅱ'型の様な、「桀・紂などは「貴爲天子、富有天下」であつても、罰などが下つた（または、非業の死を遂げた、後世の評価が低い、など）」というタイプか、その他の一般的な富貴論などにのみ用いられるようになる。Ⅰ'型を墨家特有の考えとするのは、この用例が『墨子』からのものである以外に、この考え方が漢代以降の文獻に全く見られず、それが墨家の活動時期と軌を一にしていることから推斷できる。

なお、Ⅰ'型は『墨子』節葬下篇・天志上篇・天志中篇の三例のみである

が、これらのうち、天志上篇・天志中篇は天・鬼神の論の中で用いられている。これはつまり、天や鬼神を信じれば「貴爲天子、富有天下」となれる、という素朴なロジックである。しかし當然、堯・舜・禹・湯といった古代聖王だけでなく、桀・紂などの暴君も「貴爲天子、富有天下」であることは間違いない。よって、このような矛盾を含むロジックは淘汰され、後代になってからは一切現れなくなり、Ⅱ'型か、一般的な富貴論などにのみ用いられるようになったのではないだろうか。あるいは、漢代に入ってから墨家が衰退したために、Ⅰ'型の考え方が後世に継承されなかつただけであるのかもしれない。

追悼：二〇〇六年十月二十二日、本學出身で流通經濟大學助教授（元本學非常勤講師）の小林茂先生が亡くなられた。小林先生は『墨子』に於ける「聖王」「聖人」：堯・舜・禹を中心として」（大東文化大學『漢學會誌』第36號）で墨子に関する論文を書かれたこともあり、筆者にいろいろなアドバイスをしてくださった。文末ながら、本學の一後輩として心よりご冥福をお祈りしたい。

i 丁四新氏は、「上博楚簡《鬼神》篇注釋」（簡帛網、二〇〇六年五月七日）／「上博楚簡《鬼神》篇注釋與研究」『新出楚簡國際學術研討會會議論文集』（上博簡卷、武漢大學中國傳統文化研究中心等、二〇〇六年六月二十六～二十八日）の中で、

原釋文作者將此篇竹簡題名爲『鬼神之明』、似擬《墨子・明鬼下》「鬼神之明必知之」之文而來。然而《墨子》一書中的墨家鬼神觀、與此篇竹簡其實並不相同、墨子「鬼神之明必知之」與竹簡「鬼神有所明、有所不明」的觀點是相互排斥的、故疑「鬼神之明」之篇題有誤。本文將此篇竹簡重新命名爲《鬼神》、乃仿古書命名之常例、取首句「今夫鬼神又所明」之「鬼神」二字而成。

と指摘し、本篇を『鬼神』という篇名にすべきだと主張しているが、煩瑣を避けるため『鬼神之明』の篇名のままとする。

ii 李銳氏は、幾つかの疑義を呈して、

先秦時百家争鳴、有思想者所在不少、在證據不充分的前提下、似乎不必急於爲出土文獻劃定學派。而且畢竟本篇簡文有闕佚、有待進一步研究。

と結論づけ、待考としている。李銳「讀上博五札記」(簡帛研究網、二〇〇六年二月二〇日) 参照。また、丁四新氏は、

竹簡《鬼神》很可能是一篇完整的討論「鬼神」的文章。曹錦炎認爲它是一篇「前面章節已散佚」、而「記述墨子與弟子或他人的對話」的「《墨子》佚文」的觀點、很可能都是不正確的。他認爲此篇竹簡爲對話體、其實在竹簡中並無真實的依據。又由於「鬼神有所明、有所不明」與墨子的觀點根本相左、所以將其判定爲「《墨子》佚文」也很難說是可靠的。

と指摘している。前掲の丁四新「上博楚簡《鬼神》篇注釋」を参照。

iii 『鬼神之明』の第一・第二號簡に「此(以)貴爲天子、賧(富)又(有)天下」とある。

「賧」は、「福」と讀む。當該字右邊と同様の字形は郭店楚簡『老子』甲本第三十八號簡・『尊德義』第二號簡・第二十七號簡・『性自命出』第五十二號簡などに見られるが、例えば郭店楚簡『老子』甲本第三十八號簡は、「貴臯喬」とあり、馬王堆帛書本甲・乙と王弼本以外の各種通行本は「貴富而驕」に作っている。本稿では論を進める上で、『鬼神之明』のこの一文も「貴爲天子、富有天下」と記す。

iv 桀・紂だけでなく、例えば『新書』過秦中篇・過秦中下篇では、秦二世胡亥・三世子嬰に對して用いられている。

v この『鬼神之明』譯注は、筆者の口頭發表「上海博楚簡『鬼神之明』・『融師有成氏』を讀む」(上海博楚簡研究會、2006年7月6日、於日本女子大學)の成果の一部である。

vi 渡邊卓『古代中國思想の研究』(創文社、1973年3月)の第三章「附編：墨家思想」によると、兼愛下篇・非攻下篇は前三〇〇年頃、天志上篇は前二六〇年頃、天志中篇は前二五〇年頃、である。なお、渡邊卓氏は諸篇の成立年代を表中に表しているが、具體的な數字で年代を表しているわけではない。ここに挙げた年代の數字は譯者が表を見て判断したものであることを注記しておく。なおその表は同書六五

上博楚簡『鬼神之明』に見える「貴爲天子、富有天下」について

三頁を参照。